

# 仙北組合 総合病院

# だより

発行月日 平成22年10月15日

発行責任者 後藤伸一

No.9



## ご挨拶

仙北組合総合病院

診療部長（整形外科）梅原寿太郎

今年の流行語大賞は猛暑・酷暑に決まりだろうと思うくらい今夏は異常気象が続きました。秋を告げる大曲花火大会が終わったにもかかわらず暑い毎日が続き、今年ほど“環境は動いている”ことを実感した年もありませんでした。

私は平成9年9月に当院に着任しましたのでちょうど13年になります。10年ひと昔といいますが、この10年で医療環境も様変わりしました。整形外科の診療では、すり傷などは乾かさず、また消毒しない処置が良いとされるようになり、人工関節を初めとする手術方法が大きく進歩しました。またエコー（超音波）を用いた診療が整形外科でも普及してきました。

病院全体でもいくつかの大きな変革がありました。クリニカルパス・地域連携・オーダリングシステム・DPC診療の導入などです。クリニカルパスとは、ある病気の治療や検査に対して患者さんのスケジュールの詳細を表にまとめたものです。医療者用のパスのほかに患者さん用のものもあり、定型的な手術や検査が必要な方には治療の説明の時にわたされます。これまで医師の頭の中にしかなかった治療の内容をスタッフ全員で共有することで、標準化された医療をチームとして提供できるという利点があります。チーム医療を地域にまで拡げたものが地域連携医療です。病院や診療所・施設がそれぞれの得意分野を生かして地域全体

で患者さんを診ていこうというものです。またこれまでほとんど病院の勤務医だけで行っていた休日診療を開業医の先生方がお手伝い下さるようになりました。オーダリングシステムは検査や薬の処方などの診療におけるコンピュータの導入です。パソコンの操作ばかりで患者さんの方を見ないなどといった苦情も聞かれることもありますが、これによって間違いのない迅速な事務処理が可能になりました。今後はパソコンの中にカルテをいれてしまう電子カルテも導入されるかもしれません。また平成21年度からは入院患者さんに対してDPCと呼ばれる医療費の計算方式がとられるようになりました。DPCはこれまでの出来高払い方式とちがい、疾患別に1回の入院における診療報酬値が定められていて、どんな検査・注射を行っても、1日当たりの医療費は変わらない「包括払い方式」です。これらの変化は、医療を透明化し、病院内外で働くさまざまな専門科がチームとしてまとまり、標準的で無駄のない安全な医療を提供しようという目的に向かっての手段の数々といえます。このほか最近では医療クラークと呼ばれる新しい職種の人たちの活躍により遅れがちだった診断書などの処理が早くなりました。今後も少しずつではありますが、患者さんがより実感できるサービスの面で改善を続けていきたいと考えています。

### 基本理念

私たちは、安全で質の高い  
患者様本位の医療を提供し  
信頼される病院を目指します

### 基本方針

- 常に医療の質の向上と安全な医療の推進に努め広く医療従事者の育成を行います。
- 患者様の権利と意思を尊重し、十分な説明と同意に基づく医療を提供します。
- 地域の医療・保健・福祉施設と緊密に連携し地域医療の充実に努めます。

### 患者様の権利

患者様の立場にたった医療を提供するため、以下の権利を尊重します。

- 人格を尊重されて、丁寧で思いやりのある医療を受ける権利
- 良質で安全な医療を公平に受ける権利
- 医療の情報や説明を理解した上で、治療方針を自己決定できる権利
- 診療に関する情報などのプライバシーを保護される権利
- セカンドオピニオン（別の医師の意見）を求める権利

JA秋田厚生連  
仙北組合総合病院

秋田県大仙市大曲通町1番30号

TEL 0187-63-2111

FAX 0187-63-5406

ホームページ

URL <http://www.senbokukumiai-hp.gr.jp/>  
E-mail [senbokuk@crocus.ocn.ne.jp](mailto:senbokuk@crocus.ocn.ne.jp)

# 職場紹介



## 総合受付 エネルギーセンターから こんにちは！

### ◎総合受付

受付は総勢8名の事務職員で業務を行っておりますが、一人を除き皆、はじける若さと輝く笑顔が売りで、日々病院の顔(?)として患者さんと接しております。改めて紹介するまでもなく、皆様よくご存知とは思いますが、簡単に業務の内容について説明したいと思います。

### 《受付業務》

初めて来院された患者さん、他病(医)院より地域医療連携室を通じて紹介された患者さん、救急搬送された患者さん、入院・外来患者さんの他科紹介等、多種多様な受付をしております。

### 《会計業務》

診療が終わってからの、自己負担が発生した患者さん、及び入院診療費の会計処理、現金入金の金額照合、未収患者さんへの金額のお知らせ等、現金を扱う業務なので見た目以上に精神的な負担が大きい部署であります。

### 《自費未収業務》

職員及び家族に対する医療費の減免処理、交通事故で来院される患者さんの保険会社との対応、農協組合員に対する入院医療費割引額の払い戻し、未収金の支払いについての相談、未収患者さんへの支払いの督促等、未払い会計の自費未収管理が主な業務となっております。

今後も地域医療連携室、救急外来、他職種とのコミュニケーションを取り合い、地域住民に信頼される病院の顔となれるよう努力していきたいと思いつていますので、宜しくお願ひします。



### ドックのご案内

#### ●日帰りドック

検査日：毎週月曜日～金曜日  
午前7時40分～午前11時頃  
(多少時間が前後します。)  
料 金：35,700円  
・下記項目追加の場合  
子宮がん検診3,150円  
乳がん検診 3,150円 } 加算となります。  
肺がん検診 6,300円

#### ●一泊二日ドック

検査日：毎週月～火曜日、木～金曜日  
午前7時40分～  
翌日午前11時30分頃  
(多少時間が前後します。)  
料 金：65,100円 (女性の場合、子宮がん検診が含まれます。)  
乳がん検診追加の場合3,150円加算となります。

### ボランティア募集

身体の不自由な方やお年寄りが車を乗り降りする際の手助けや、車椅子や受付の補助をしてくださるボランティアの方を募集しております。

週1日から結構ですので、是非お願いします。

お問い合わせは総務課へ。電話またはEメールで。



## 病院祭

# ☆第8回仙北組合総合病院 病院祭開催される



恒例となっている地域のふれあい活動推進を目的としての第8回病院祭が、9月11日（土）当院の玄関ホールなどを主会場に開催されました。

当日は、あいにくの雨の中にもかかわらず、入院患者さん、地域住民の方など例年よりやや少ない約500名が見学に訪れました。

病院祭では、午前11時から中仙小学校、大曲西中学校による器楽演奏、大曲太鼓道場による太鼓演奏、午後からは大曲高校合唱部による演奏、大曲農業高校郷土芸能部による民謡と踊りのショーが行なわれ、観客からは生徒たちの見事な演奏や歌声に大きな拍手とアンコールの声がかかり祭りを大いに盛り上げて頂きました。

また、JA秋田おばこ女性部と大曲農業高生による特産物、農産物販売も行なわれ新鮮な野菜など市価より安く販売していただき、病院祭の呼び物バザーでは人気のタオル類や洗剤など日用品を求めようと販売開始時間前から列を作っている状況でした。

その他、職員による企画として、ヨーヨー、ポップコーンや麦茶、コーヒーのサービス、看護師による血圧測定や体脂肪測定、健康相談そして介護用品の展示、薬剤師、栄養士による相談コーナーも同時に開催されました。

病院祭の実行委員長麻酔科の秋山先生は「悪天候のため運営が大変でしたが、見学に来られた皆さんのが笑顔で苦労が報われたと思います。これからも地域との関係を密にしていきましょう。」と感想を述べていました。



## ○大仙市 市制施行記念駅伝競走大会



去る6月6日、第6回大仙市市制駅伝が行われました。

仙北組合総合病院からも、麻酔科の秋山先生を筆頭に、医局、放射線科、薬局、透析室、3病棟、保健福祉活動室からメンバーが集まり、初の出場を果たしました。男女別々でチームを組み、「仙北組合病院」のネーム入りのユニフォームを着て、1チーム5人でたすきをつなぎ、男子は22km、女子は11kmをみんなで完走しました。

大会を終え、女子4区を走った薬局の伊多波さんは、「仲間が渡してくれたたすきをゴールまでつなぎたいという思いで走りました。チームの絆がより深まった大会になりました。応援して下さった皆さんありがとうございました。」と感想を話してくれました。また、男子3区を走った放射線科の佐藤明弘さんは、「走っているときは、苦しくて、挫折しそうでしたが、「たすき」を繋がなくては!という必死な思いで、一生懸命に走りました。楽しかったです。」と駅伝のことを振り返って話してくれました。



駅伝大会終了後は、みんな、それぞれで練習を進めながら、次のマラソン大会に出場して、自分の目標や記録にチャレンジしている最近です。

終わりに、監督やマネージャーを引き受け下さった検査科、薬局、透析室のスタッフの皆さん、仕事や勤務の調整をして下さり、当日、出場させて下さった同部署の皆さん、沢山の方の協力・支えのもと、今大会で完走することができました。本当にありがとうございました。（保健福祉活動室 佐藤美喜子）



# 「Face to Face」 Vol 3

1

## 室長あいさつ

室長 佐々木 順 孝

最近、開業医の先生方から、この地域の連携はスムーズだねといわれることが多くなりました。連携室の立ち上げの頃は、もともと各先生方の個人的連携も円滑だったこともあり、逆に手続きが多くなるのではと声もありましたが、実際始めてしばらくすると、もともと開業されている先生方はもちろん、新規の開業の先生方たちにもよく利用され、最近の好評につながっており、利用されることで我が連携室は存在価値を高めているのかなと思っています。もちろん院内の先生方のご協力あっての賜物だと思っています。私自身は医師会の理事を任されておりますが、医師会の会合などに時々ながら参加したり、自ら委員会などを開いて討論したりすることで、医師会の先生方は思っていたより、いろいろな「連携」を所望されていることがわかり、この流れをうまくアシストするにはどうしたらいいのかを日々考えております。

このように前方連携（患者さんの紹介など）に関してはうまくいっていますが、後方連携となるとまだ改善の余地があるのかなと思っています。患者さんは退院するために入院するのであり、患者・家族様がいかに納得し安心して退院できるか、これが、これから連携室の仕事です。退院後に具合が悪くなったらまた診てもらえるのか、すぐに入院できるのか、そういった安心感が必要なのだと思います。

医療連携にはさまざまな形がありますが、大事なのは一方的な連携でなく、双方向性の連携だと考えています。大曲仙北医療圏の中の、我々もやはり限りある医療資源のひとつであり、お互いに十分に活用し、活用されなければならないし、相手を思いやる気持ちなくしては真の連携はないと考えています。コミュニケーションすることで連携が深まり、いろいろな仕事が円滑にできるようになります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

2

## 第8回仙北組合総合病院 病院祭に参加して

9月11日（土）、病院祭に地域医療連携室が初参加し、『かかりつけ医を持ちましょう』のPRポスターを作成し、病院祭に来られた地域の皆様にアンケート調査のご協力をいただきました。

アンケート結果は、『かかりつけ医を知っている』と答えた方は、98%（52名 / 53名中）、『実際に開業医にかかりつけ医を持っている』と答えた方は、81%（43名 / 53名中）で、『当院がかかりつけ医』と答えた方が19%（10名 / 53名中）でした。今後も継続して参加し、地域の皆様と連携に関する情報交換をしていきたいと考えています。

地域医療連携は、患者様の症状にあった継続性のある医療を適切な場所で切れ目なく提供することを目的とし、地域の医療機関と病院が機能分担し連携することにより助け合って行く仕組みを言います。

自分の生活環境を知った上で、肉体面・精神面の相談に乗ってくれる『かかりつけ医』は、気軽に相談でき、必要であれば専門医を紹介し、家族を含めて健康チェック・指導をしてくれる信頼できるよきパートナーといえます。

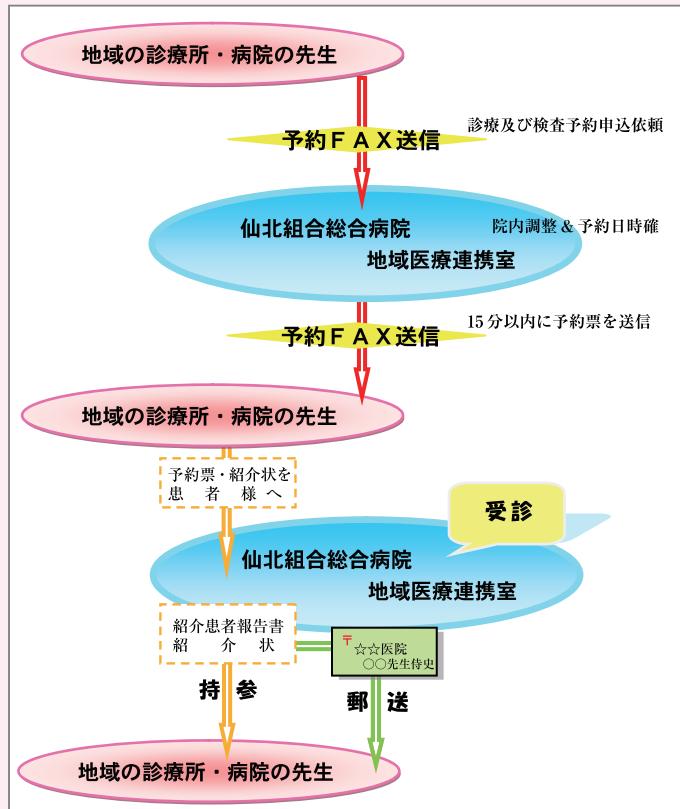
最近は、特定の疾患で病院の専門医にかかっている場合でも、専門医とは別に気軽に診てもらえる『かかりつけ医』をもつことが望ましいとされています。



## 3

### 地域医療連携室 紹介患者システムご利用のご紹介

FAXによる事前申し込みをされると、紹介患者さんの初診時の待ち時間が大幅に短縮されます。

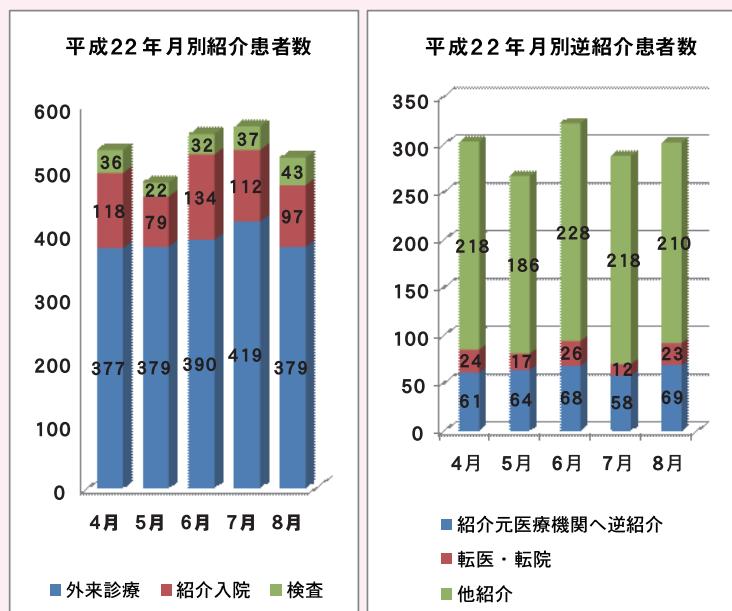


## 4

### 月別紹介患者・逆紹介患者数

平成22年4月から8月までの紹介患者数と逆紹介患者数の月別件数データーをまとめ、下記のようにグラフにしました。

紹介患者数の平均は、外来診療が389人、紹介入院が108人、検査(MRI・CT等)34人に対し、逆紹介数の平均は、紹介元医療機関へ逆紹介が64人、転医・転院が20人、他紹介が212人という結果でした。



## トピックス

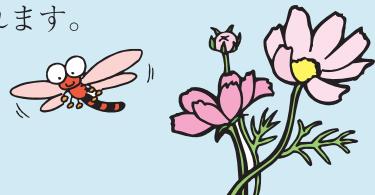


### 「消化器がん化学療法の進歩」

外科 科長 小野文徳

消化器がん治療において、がんを完治させることができ可能な手段は手術であることに現在も変わりはありません。しかし、高度進行例や再発例では化学療法が治療の中心となります。

近年、新しい抗がん剤が次々と登場し、投与法も工夫され、副作用対策も進んでいます。また、従来の抗がん剤とは違ったタイプの「分子標的薬」とよばれる治療薬も登場しました。分子標的薬は、がん細胞が持っている特定の分子をターゲットにするので、がんに対する特異性が高いという特徴があります。従来の抗がん剤は、畑の雑草を駆除するためにヘリコプターで薬を散布するような方法で、雑草(がん)のない正常な部分にも悪影響を及ぼしていましたが、分子標的薬は雑草(がん)だけをピンポイントでやっつけるように働きます。従来の抗がん剤や分子標的薬を多様に組み合わせることにより、治療成績は格段に向上しました。今後はさらに新しい薬剤や投与法が開発され、がん化学療法がますます発展していくものと考えられます。



#### 【地域医療連携室へのお問い合わせ】

TEL : 0187-63-2111 (内線2104)  
FAX : 0187-63-0004 (専用FAX)  
平日：8:30～16:30



# ジェネリック医薬品(後発医薬品)

## ▶ジェネリック医薬品とは

新薬(先発医薬品)が開発されるまでには10数年もの年月と、数100億円もの費用が必要になります。その開発費を補償するため、新しい薬は特許で守られており、開発した製薬会社が特許期間の20~25年間、独占的に販売することができます。その後、特許期間が切れて他の製薬会社から製造・販売される薬のことを、ジェネリック医薬品(後発医薬品)と言います。

## ▶薬の価格(薬価)

薬の価格は製薬会社、病院、薬局で勝手に決めているのではなく、厚生労働省によって決められます。ジェネリック医薬品は研究開発費が掛からないため、先発医薬品の7割以下と設定されており、2~7割で販売されています。ジェネリック医薬品を販売しようとした時、すでに20品目を超えている時は、1番低い薬価の

90%に設定されます。そのため、同じ成分のジェネリック医薬品同士でも価格差が生じます。

## ▶薬の安全性と効果

ジェネリック医薬品も先発医薬品と同じように薬事法で定められた基準で製造されています。「品質再評価」という制度に基づく試験により、その品質や薬効が先発医薬品と同等であることが確認されると承認されます。現在では先発医薬品が開発された当時よりも製剤技術が進んでいるため、味が良かつたり、吸収が良かつたりして、先発医薬品よりすぐれている医薬品もあります。逆に、同等ではなく、多少効き目に違いのあるジェネリック医薬品もあります。

ジェネリック医薬品は経済性ですぐれていますので、医師、薬剤師に相談し、自分に1番あったお薬を選んで下さい。



## 診療案内

## 外来診察医一覧

《祝祭日と土曜日は全科休診です》

平成22年10月1日現在

診療科	月	火	水	木	金	備考
内科1診	—	—	—	—	—	
内科2診	○山口昭彦	佐々木重喜	○斎藤宏文	○山口昭彦	○大八木秀明	○は新患担当
内科3診	○仁村 隆	○茂木睦仁	○仁村 隆	○茂木睦仁	○仁村 隆	○は新患担当
内科4診 (専門外来)	— 糖尿病外来 森井 宰	— 糖尿病外来 森井 宰	— 糖尿病外来 小松田 敦	— 糖尿病外来 小川和孝		
循環器科1	加藤結花	荒川 博	佐々木一哉	加藤結花	佐々木一哉	
循環器科2	佐々木一哉	後藤和也	秋田大学	荒川 博	秋田大学	
循環器科3	—	呼吸器内科 (秋田大学)	心臓血管外科 第1・第3・第5	—	呼吸器内科 (秋田大学)	火 12:30から 金 11:30まで
消化器科1診	五十嵐 潔	高平尚弘	五十嵐 潔	高平尚弘	五十嵐 潔	
消化器科2診	伊藤博彰	伊藤博彰	伊藤博彰	沖口将夫	沖口将夫 中島 康10:00~	
神経内科	—	—	—	—	菅原正伯	13:00~
小児科1診	五十嵐希世志	深谷博志	五十嵐希世志	矢野珠巨	五十嵐希世志	
小児科2診	大村映子	小山勝幸	小山勝幸 (秋田大学)	深谷博志	大村映子	☆第1・3水曜日 13:30~
外 科	小野文徳	大村範幸	平賀雅樹	小野地章一 片桐宗利	工藤克昌	
呼吸器外科	中川 拓	—	中川 拓	—	工藤智司	月・水 11:00まで 金 10:30まで
泌尿器科1診	岡根克己	岡根克己	岡根克己	熊澤光明	岡根克己	
泌尿器科2診	熊澤光明	熊澤光明	高山孝一朗	高山孝一朗	高山孝一朗	
産婦人科 (婦科)	山本博毅	小西祥朝	小西祥朝	山本博毅	小西祥朝	
産婦人科 (産科)	小西祥朝	菅原多恵	山本博毅	菅原多恵	山本博毅	
耳鼻咽喉科1診	垂石羊司	垂石羊司	秋田大学	垂石羊司	辻 正博	
耳鼻咽喉科2診	横溝道範	横溝道範	横溝道範	辻 正博	横溝道範	
整形外科1診	梅原寿太郎	佐藤心一	梅原寿太郎	那波康隆	梅原寿太郎	専門分野 梅原(股関節・膝・小児) 後藤(脊髄) 佐藤(手・足・外傷)
整形外科2診	後藤伸一	那波康隆	後藤伸一	後藤伸一	佐藤心一	
整形外科3診	菅原長弘	小笠原将教	佐藤心一	小笠原将教	佐藤俊一郎	
皮膚科	—	秋田大学	秋田大学	—	秋田大学	
脳神経外科	佐々木順孝	田村晋也	佐々木順孝	大前智也	佐々木順孝	
麻酔科	秋山博実	大高公成	—	—	秋山博実	
放射線科	黒川博之	黒川博之	黒川博之	黒川博之	黒川博之	
歯 科	鈴木靖子	鈴木靖子	鈴木靖子	鈴木靖子	鈴木靖子	
	和田 務	和田 務	和田 務	和田 務	和田 務	

△当院では、5月31日をもって皮膚科常勤医師が不在となったため、6月2日から皮膚科外来は秋田大学の応援医師による完全予約制外来となりました。